

サンヒョク・カンさん(韓国)

韓国の江原道や慶尚南道を襲った台風ルーサー（2002年）や台風マエミ（2003年）は、1927年に韓国で気象台が設立されて以来、記録的な洪水被害をもたらしました。この二つの災害は、多くの市街地を浸水させ、インフラなどの重要施設・設備を完全に麻痺させたのみならず、多くの尊い人命を奪い、深刻な被害を与えました。この被害は、韓国が経験した自然災害の中で、最悪のものとなりました。これら台風による教訓から、韓国国民の間では、水害は、自然災害ではあるが、人間の手で軽減することができるものであるということが幅広く認知されるようになってきています。



韓国政府により、ハードおよびソフト対策を含む災害被害を減少するための行動計画が作成されています。また、持続的に災害リスクを管理するために、2006年、韓国政府は国立防災教育研究院を設立しました。この研究院は、防災を担う公務員を対象とした防災意識の啓発を目的としています。

韓国へ帰国したあと、水害からの被害をいかに減少させるかについて、教育研究院で講義を行うことになっており、日本での経験を生かすことができればと思っています。

最後に、日本で勉強する貴重な機会を与えて下さった韓国消防防災庁（NEMA）とADRCに感謝申し上げます。